

レフェリー

2019年度 鳥取県高校生審判講習会報告書

1. 日時：2019年 6月9日（日） 9：00～13：00
2. テーマ：「審判を体験してみよう」
3. 場所：倉吉総合産業高校 物理室及び体育館
4. 参加人数：鳥取県内高校生12名（東部3、中部4、西部5）
5. 内容

9：00～ 受付

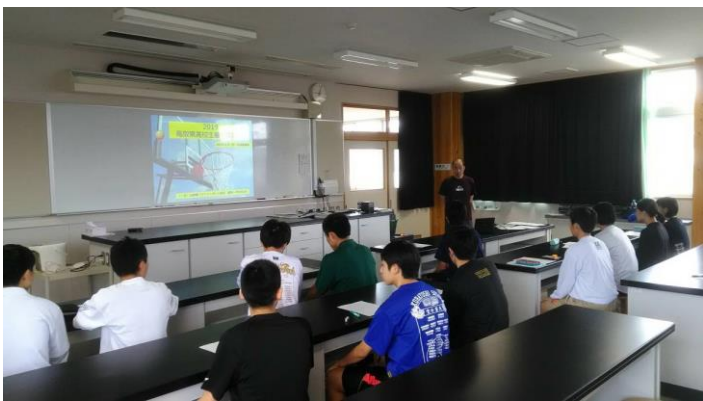
9：10～ 開講式

9：15～ 講義1 審判を始めるにあたって

中部地区審判長 神田 竜馬（倉吉西高校）

9：35～ 講義2 3POメカニックについて

高体連審判長 稲田 篤（鳥取西高校）



10:00～ クリニック テーブルレポート・ローテーション

鳥取県審判長 甲斐 清（倉吉東高校）

10:30～ 実技（5分ゲーム、高校生3人組4クルーで）

12:45ごろ 閉校式・解散



6. 高校生の感想

- 改めて審判の大切さが分かった。
- ファウルの種類や見る角度など普段意識してないことをしたのですごくいい経験になりました。これからもこの経験を生かして審判をしていきたいです。

- 今日の講習会でレフリーのコートでの動き方やファールした時の判定の仕方だったり、とても勉強になりました。実践の場面では一回目は、なかなか上手く行きませんでした。二回目の時、ファールを吹くこともできましたし、動き方もだんだん分かってきました。もし機会があれば練習中にでも実践していこうと思いました。ありがとうございました。
- わかりやすい説明だったので、理解しやすかった。なので実技も楽しく出来た。
- 講義では、自分の知らなかった動き方やファウルの種類を学ぶことが出来ました。実技では、レフリーディフェンスを意識してして、自分はあまりディフェンスを中心に見ることが出来なかったので部活や練習試合を通して出来るようになりたいです。今日は審判の基礎的な知識、動きを教えてくださいありがとうございました、しっかり学んだことをこれから発揮できるように頑張りたいと思いました。
- IOT 中のレフェリーディフェンスを意識することで、悪い手の使い方などをしっかりと見ることができてレフェリーディフェンスが大切だと実技を通して感じました。3PO はしたことがなくて動き方がとても難しかったです。でも、先生方に教えてもらいながら吹いてみることで、少し理解できたと思います。ゲームを吹いてみて、レフェリーはとても面白く、今後 E 級を必ず取りたいと思いました。またこのような機会があったら参加したいと思います。今日はありがとうございました。
- “審判の動きを、頭では理解したつもりでしたが、実際コートに立つとうまく動けません。もっと練習して、自分から動けるようになりたいです。また、この経験を自分のプレーに活かしたいです。
- 初めてで試合よりすごく緊張しましたが、実際やってみると自然と笛も吹けるようになり（まだまだですが…）楽しくコートで走れました。また、普段プレーヤーから感じることや見てわかることなど今日審判側から見て感じ方がまた違ってさらにバスケの面白さも知ることができました。今日教えてもらったことをプレーヤーとしても審判をした時にしても生かしていけたらいいなと思います。半日間ご丁寧にありがとうございました！
- すごく勉強になりました。普段はプレーばかりを見てしまうけど初めて審判目線でゲームを見てまた違った見え方だったので面白かったです。難しかったけど楽しかったのでまたやってみたいなと思います。
- 今まで審判についてほとんど何も知らなかったけど今回の講義で少しかもしれないけど審判について知って実際にやってみて面白いと思い、今回参加してよかったと思いました。
- 審判はディフェンスを見ることが大切だという事がわかった。3PO では 3 人の連携がいることがわかった。この習ったことをこれからも生かしていきたい。

7. 最後に

高校生対象の審判講習会を全県で行ったのは今回が初めてです。12名もの高校生が参加してくれ、大変活気のある講習会となりました。感じたことは、高校生の対応力の早さです。初めてのレフェリー、初めての3POなのに、講義の内容をもとに自然とみるべき位置にポジショニングできていることや、それを判定につなげていること、また、1回目より2回目がより良くなっていく姿を見て、若い世代の柔軟な力の凄さを感じました。この講習会をきっかけに鳥取県の若いレフェリーが育ってくれると大変うれしく思います。また、今回の講習会には参加できなかったけど、審判に興味がある高校生がおられましたら、EラーニングでE級ライセンスの取得に挑戦してみてください。最後に、お忙しい中にもかかわらず会場を提供・準備をして頂きました倉吉総合産業高校のチーム関係者の皆様、ゲームに協力して頂きましたU16男子DCの関係者の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(文責 神田竜馬)